

海・地球を守ろうプロジェクト

「僕たち・私たちの漂流物アート作品展」

少しでもきれいな海になって魚や海の生き物たちが元気に暮らせるようにと願いを込めて海岸に打ち上げられたものを拾ってきました。純粋な子どもたちの思いとあふれる表現力をアートに変えてみました。



健民海浜公園への遠足先の近くの海から 5 歳児たいようグループの子どもたちが海をきれいにする目的も兼ね拾った漂流物を使って、子どもたちの想像力を膨らませてアートに変えました。

遠い世界の海から流れ着いた漂流物の中には、どんなものが落ちているのかを想像してしていました。実際には、絵本を見たり話しあったりして想像をしていたプラスチックや、包装袋、手袋、お菓子の空容器、ストロー、木の实、木、そして砂浜に打ち上げられた貝殻や海の中での海藻、魚の骨など、船の落とし物の網、ロープ、浮き、釣り糸などたくさんのもがありました。

拾ったものの中には、見たことのあるものや見たことのないものなどいろいろな不思議なものがありました。子どもたちは見つけたものをこれは何だろうと考えたり、これであの作品を作ろうと思いついたりしながら袋にしまい込んでいました。何が出来上がるかという、子どもたちの想像力ははかりしれません。子どもたちの表現力の自由さが発想によって大人が想像のできない作品へと生まれ変わることを感じながら展示させていただきました。

海から塩ってできるの？



海へ行くと決まってから海の水って「からい」のは塩が入っているからだ「さとうとしお」という絵本から知り、海の水に本当に塩が入っているのかを知りたいという探求心を掻き立てられてペットボトルに海水を3本分持ってきました。

今はまだ一本を煮詰めている途中ですが見届けています。さて本当に塩ができるのでしょうか？

塩ってどんな形をしていて、何色で、何味なのか想像は膨らむばかりです。

どのくらいの塩ができるかもわからないことに子どもたちも保育者もあれから夢を見ている。

夢がかなう日を心待ちにしています。

